

記 録

## 岡山県新産のネコノメソウ属2種について—続報—

岡山県自然保護センター 地職 恵

### New record on two species of genus *Chrysosplenium* found in Okayama Prefecture (The second report)

Megumi CHISHIKI *Okayama Prefectural Nature Conservation Center*

キーワード：イワネコノメソウ, 生育状況, マルバネコノメソウ.

#### はじめに

ユキノシタ科ネコノメソウ属の植物は日本に14種が分布し、岡山県野生生物目録(2003)には、県内に7種と2変種が掲載されていた。筆者は岡山県自然保護センター研究報告第16号(2008)で、イワネコノメソウとマルバネコノメソウの2種を岡山県新産として報告し、県内には9種と2変種のネコノメソウ属の生育が明らかとなった(岡山県生活環境部自然環境課, 2009)。

ネコノメソウ属の植物は、山地の溪谷や水湿地に生育するものが多く、植物体は小型で軟弱な多年草である。花期が早春に限られること、大きさや葉の形などの変異の幅が広いこと、開花後の植物体は色や形が開花時より大きく変化すること、などその識別はむずかしいことが多い(大場, 1982)。

既報ではイワネコノメソウの開花時期、及びマルバネコノメソウの生育状況について課題を残していた。2009年4月30日に再調査に赴き、それらの課題を確認することができたので報告する。尚、調査地の概要や経緯については既報を参照されたい。

#### 観察結果

##### イワネコノメソウ

*Chrysosplenium echinus* Maxim.

調査日の4月30日には開花のピークは少し過ぎていたが、開花株やつぼみも残っていた。2007年5月15日、2008年5月20日の観察では開花株はすでに見られず果実期であった。それらのことから推察すると、年によって雪解けの開始は多少前後すると考えられるが、4月中旬～5月上旬にかけてがここでの開花期間と考えられる。

本種は湿った岩上、土上、コケ植物の間などに生育し、植物体は明るい緑色をしている(図1)。茎に対生する葉には明らかな葉柄があり、葉腋にわずかに毛が認められることもあるが、多くは茎・葉ともに無毛、茎は透明感のある薄緑色または赤



図1. イワネコノメソウ 湿った岩上、土上、コケ植物の間などに生育



図2. イワネコノメソウ 茎・葉ともに無毛. 対生する葉には明らかな葉柄がある



図5. イワネコノメソウ 若いさく果



図3. イワネコノメソウ 無花枝の葉は先端ほど大きく、鋸歯も明瞭になる



図6. イワネコノメソウ 花時に根出葉はない



図4. イワネコノメソウ 花序. 苞は扇型



図7. イワネコノメソウ ガク裂片は卵形で平開する. 裂開直前の雄しべは橙赤色でガク裂片より短い

味を帯びるものもある（図2）。葉には3-5対の内曲した鋸歯があり、無花枝の葉は先端ほど大きく、鋸歯もより明瞭に現れる（図3）。花茎は高さ3-12cmで、4月30日には花と（図4）ごく若いさく果が認められた（図5）。花時に根出葉は残

らない（図6）。花は径5mmほど、黄緑色のガク裂片は3角形～卵形で鈍頭またはやや尖り、花時に平開する。花盤はよく発達し、雄しべは8個で花盤の周縁につき、ガク裂片より短く、裂開直前の葯は橙赤色、花柱は短く直立する（図7）、



などが観察された。それらに加え、種子には隆条に列生する棍棒状突起がはっきりと認められる、花後地上性の走出枝が伸びその先端にはロゼットを作らない(地職, 2008), ことも特徴となる。

イワネコノメソウは本州(関東・東海地方)・四国・九州に分布域をもつ種(大場, 1982)とされ、前回の報告では中国地方からの生育情報は得られていなかった。しかしその後中国地方では山口県に局在し、レッドデータブックやまぐち(2002)により、絶滅危惧 I A類に指定されていることがわかった。このことから、中国地方にはごく希に分布し、岡山県は2カ所目の生育地となるようである。筆者は四国の愛媛県や近畿地方、中部地方など、数カ所で見ているが、いずれも深山溪谷の水湿地であり、岡山県の生育地と似通った環境下であった。

### マルバネコノメソウ

*Chrysosplenium ramosum* Maxim.

調査日の4月30日には開花したものや蕾などが見られ、果実になっているものは見られなかった。2008年の調査では5月20日にも花を確認していることから、調査地でのマルバネコノメソウの開花期間は、おおむね4月下旬～5月下旬と推察され、県内に生育するネコノメソウ属では最も遅い開花と考えられる。

本種はイワネコノメソウよりもさらに水際に近く、沢の飛沫を浴びるような場所にも見られ、タチネコノメソウや水際を好んで生育するコケ植物と混生している(図8)。茎や葉柄基部に開出す



図8. マルバネコノメソウ 水際の岩上, コケの間などに生育. 写真ではタチネコノメソウも混生

る軟毛を散生する(図9)。対生する無花枝の葉は、先端のものほど大きく、内曲する鈍鋸歯があり、表面脈上に短毛が散生する(図10)。花茎は高さ7-15cm, 4月30日には開花間もない状態と見られた(図11)。根出葉は花時には枯死するか、または残る(図12)。花は径5mmほど、ガク裂片



図9. マルバネコノメソウ 茎に開出する軟毛が散生



図10. マルバネコノメソウ 無花枝の葉(矢印)は先端ほど大きく、表面に短毛が散生する



図11. マルバネコノメソウ 花序. 苞は丸みを帯びる



図12. マルバネコノメソウ 花時に残っていた根出葉 (矢印)



図13. マルバネコノメソウ ガク裂片は広卵形で平開する (矢印). 裂開直前の葯は黄色でガク裂片より短い

は花時に平開し広卵形で緑色、花盤はよく発達する。雄しべは8個で花盤の凹部から出てガク裂片より短く、葯は黄色である(図13)などの観察結果が得られた。花は開花期間中であっても目に付きにくく地味な存在であるため、今まで見過ごされてきたのかもしれない。個体数はイワネコノメソウよりもさらに少ない。

マルバネコノメソウは北海道・本州の近畿地方以北に分布域をもつとされる種(大場, 1982)で、中国地方では未記録のようである。

兵庫県では播磨西部と但馬に希産するとされ、兵庫県版レッドデータブック(2003)によりAランクに指定されている。従って今回の生育地は国内分布の西限にあたりと考えられる。

## 2種の生育地の状況

調査地周辺は上記2種のネコノメソウ属以外にも、コガネネコノメソウ、タチネコノメソウ、ボタンネコノメソウ、キンシベボタンネコノメソウ、ネコノメソウなどの生育が見られる。調査地である山地の北斜面は、何本もの沢がひだのように流れを刻み、どの谷も似たような環境下に見える。しかしイワネコノメソウとマルバネコノメソウは一部の谷の極めてわずかな範囲でしか見つからない。関東地方以西の主に太平洋側に分布域を持つとされるイワネコノメソウと、北日本に分布域を持つとされるマルバネコノメソウが混在できる、微妙な環境が出来上がっているのかもしれない。ならば、森林伐採や環境整備という名の環境の変化などで、それらは簡単に消滅する危険性を含む。一帯の自然も含めての保護が望まれる。

## 引用文献

- 地職恵, 2008. 岡山県新産のネコノメソウ属2種及び88年ぶりに確認されたニシノヤマタイミンガサ. 岡山県自然保護センター研究報告, (16): 63-66.
- 兵庫県県民生活部環境局自然環境課, 2003. 改訂・兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック2003. 382pp. 兵庫県県民生活部環境局自然環境課, 兵庫.
- 岡山県生活環境部自然環境課・岡山県環境保全事業団編, 2003. 岡山県野生生物目録. 397pp. 岡山県生活環境部自然環境課, 岡山.
- 岡山県生活環境部自然環境課・岡山県環境保全事業団編, 2009. 岡山県野生生物目録2009. 378pp. 岡山県生活環境部自然環境課, 岡山.
- 大場秀章, 1982. ネコノメソウ属. In: 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊治・富成忠夫(編), 日本の野生植物草本編II. pp.157-161. 平凡社, 東京.
- 山口県環境生活部自然保護課, 2002. レッドデータブックやまぐち 山口県の絶滅のおそれのある野生生物. 511pp. 山口県環境生活部自然保護課, 山口.